

広域拠点の変遷

川崎市では、隣接都市拠点との調和のもとに適切な機能を有する拠点の整備をめざし、「川崎駅周辺地区」「小杉駅周辺地区」「新百合ヶ丘駅周辺地区」の3地区を広域拠点と位置付け、個性と魅力あふれるまちづくりを進めてきました。

そこで、平成22年までの約10年間の3地区の移り変わりを、人口や産業に関する統計データを使ってまとめました。



1

川崎市の広域拠点

今回の特集は、川崎駅周辺地区、小杉駅周辺地区及び新百合ヶ丘駅周辺地区の3地区について、平成22年までの約10年間の変化を、国勢調査、経済センサス結果等の統計データから、人口・住宅・産業などの分野についてまとめました。

川崎駅 周辺地区

～川崎市の玄関口～

川崎駅東口側には、官公庁や地下街アゼリアなどの商業施設が集積しています。一方、駅西口側では平成16年に「音楽のまち・かわさき」を象徴するミュージア川崎シンフォニーホール及び高層オフィスビルが開業、さらに平成18年には工場跡地に駅直結の大規模商業施設であるラゾーナ川崎プラザが開業し、周囲には高層共同住宅も建設されるなど、駅周辺は商業、業務、文化施設並びに都市型住宅等の充実した都市機能の集積が進んでいます。

平成23年3月には、環境配慮技術の積極的な導入と、駅周辺のバリアフリー化を図った東口駅前広場の再編整備が完了し、川崎市の玄関口にふさわしい活力と魅力にあふれた広域拠点となっています。

小杉駅 周辺地区

～利便性の高いまちへ～

武蔵小杉駅は川崎市の中央部に位置し、JR南武線、東急東横線・目黒線に加えて、平成22年3月にはJR横須賀線の新駅が開業し、さらに交通の利便性が向上しました。

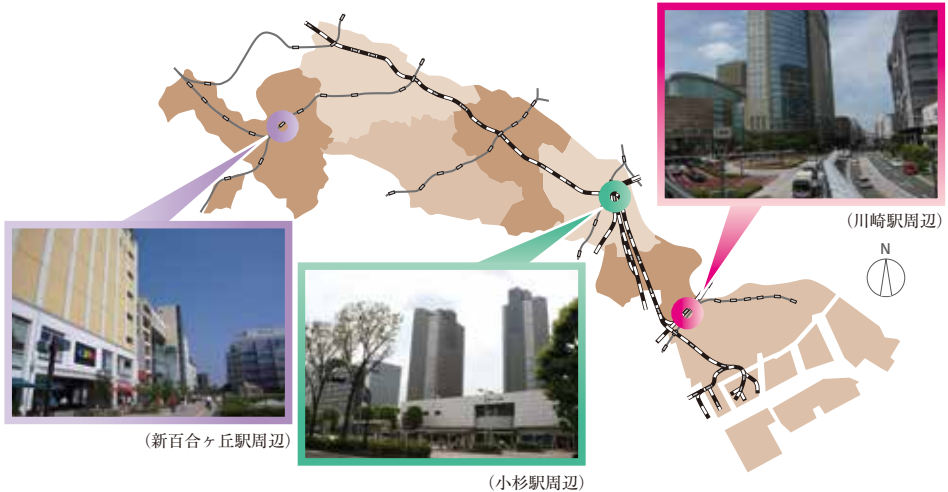
駅周辺の工場跡地等を中心とした大規模な民間再開発事業に伴い、平成21年には駅前の高層共同住宅の一角に「中原市民館」を開館、平成25年4月には駅直結の商業施設内に「中原図書館」を移設するなど、商業、業務、文化交流、医療施設、都市型住宅等の機能が集積した、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを目指した整備が進められています。

新百合ヶ丘駅 周辺地区

～職、遊、住の機能が融合～

新百合ヶ丘駅を中心に、商業・業務・文化などの都市機能が集積しており、平成12年から20年にかけて行われた万福寺土地区画整理事業などにより、駅周辺では自然環境と調和した戸建住宅を中心とする質の高い住宅街が形成されています。

また、昭和音楽大学(平成19年)や日本映画大学(平成23年)が開校するとともに、川崎市アートセンター(平成19年)が整備され、新百合21ホール、麻生市民館などの周辺施設と連携した市民主体の活動が行われるなど、芸術、文化資源を活用した魅力あふれるまちづくりが進められています。



●次頁からの各地区別の数値は、拠点の駅から概ね半径1km圏内にある町丁データを集計したものです。

川崎駅周辺地区 (砂子1・2丁目、駅前本町、櫻町、小川町、貝塚1・2丁目、下並木、新川通、日進町、東田町、堀之内町、本町1・2丁目、南町、宮前町、宮本町、元木1・2丁目、大宮町、幸町1～4丁目、中幸町1～4丁目、堀川町、南幸町1～3丁目、都町、柳町)34町丁

小杉駅周辺地区 (市ノ坪、今井上町、今井仲町、今井西町、今井南町、上丸子、上丸子山王町1・2丁目、上丸子天神町、上丸子八幡町、木月吉町、

小杉御殿町1・2丁目、小杉陣屋町1・2丁目、小杉町1～3丁目、下沼部、新丸子東1～3丁目、新丸子町、中丸子、丸子通1・2丁目)26町丁

新百合ヶ丘駅周辺地区 (片平1丁目、金程1・2丁目、上麻生1～4丁目、高石1・2丁目、千代ヶ丘1～4丁目、古沢、万福寺、万福寺1～6丁目、百合丘1～3丁目)24町丁

※住居表示が実施された区域では、町丁目界が一部、現在と異なります。

2

川崎駅周辺地区

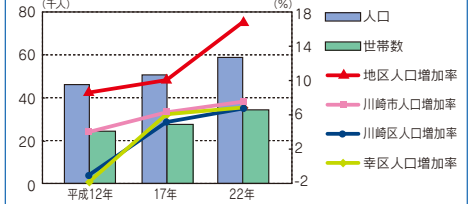
(1) 人口と世帯数の推移 - 駅周辺の人口は10年で28.4%の増加 -

(表1) 人口と世帯数及び人口増加率の推移

年次別	川崎駅周辺地区			川崎市	川崎区	幸区
	世帯数	人口	人口増加率	人口増加率	人口増加率	人口増加率
平成12年	24,329	46,176	8.5	3.9	▲1.1	▲1.9
17年	27,935	50,763	9.9	6.2	5.0	5.9
22年	34,518	59,282	16.8	7.4	6.6	6.7

(国勢調査)

(図1) 人口と世帯数及び人口増加率の推移



(国勢調査)

● 駅周辺地区の人口と世帯数の推移をみると、平成12年の人口は46,176人、17年は50,763人、22年は59,282人となり、平成12年から22年までの10年間で13,106人(28.4%)増加しています。世帯数は、平成12年に24,329世帯、17年に27,935世帯、22年に34,518世帯と10年間で10,189世帯(41.9%)増加しています。

人口増加率をみると、平成12年から17年までの5年間では、9.9%でしたが、17年から22年では16.8%となり6.9ポイント上昇しました。これは川崎市全体の17年から22年までの人口増加率(7.4%)と比較しても、9.4ポイント上回っており、駅周辺の人口が大幅に増加していることがわかります。(表1、図1)

(表2) 川崎駅周辺地区の人口増加率上位5町丁

順位	町丁名	人口			人口増加数 平成12年~22年	人口増加率(%) 平成12年~22年
		平成12年	平成17年	平成22年		
1	堀川町(幸区)	294	199	1,690	1,396	474.8
2	大宮町(幸区)	1,507	2,502	3,457	1,950	129.4
3	下並木(川崎区)	1,500	1,457	2,985	1,485	99.0
4	中幸町3丁目(幸区)	962	1,089	1,859	897	93.2
5	櫻町(川崎区)	649	960	1,165	516	79.5

(国勢調査)

● 駅周辺地区の34町丁を、平成12年から22年の人口増加率上位5位のランキングでみると、1位は幸区堀川町の474.8%、2位は幸区大宮町の129.4%、3位は川崎区下並木の99.0%となっています。(表2)

(2) 昼間人口の推移 - 昼間人口密度の変化が大きい幸区大宮町 -

(表3) 昼間人口・夜間人口及び昼夜間人口比率の推移

年次別	川崎駅周辺地区			川崎区	幸区
	昼間人口 (a)	夜間人口 (常住人口) (b)	昼夜間 人口比率 (a/b×100)	昼夜間 人口比率	昼夜間 人口比率
平成12年	99,328	46,099	215.5	134.7	90.3
17年	103,274	50,584	204.2	126.7	88.8
22年	108,461	59,282	183.0	119.8	95.8

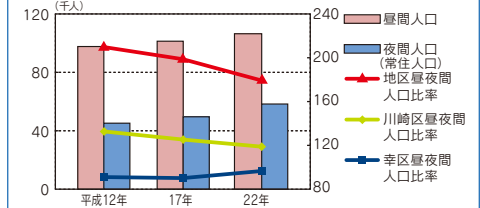
注) 平成12年、17年は「年齢不詳」を除く。

(国勢調査)

● 駅周辺地区では、昼間人口も増加しています。また、昼夜間人口比率は、川崎区と幸区の比率と比べて、大幅に高くなっています。これは他の地域から流入する就業者等が多いことを示しています。(表3、図2)

● 昼間人口密度を、川崎区と幸区を合わせた町丁別ランキングでみると、上位の7位全てが、駅周辺地区の町丁(下線)となっています。なかでも、駅西口の商業施設等の集積が進んだ、ラゾーナ川崎がある堀川町と、ミューザ川崎がある大宮町は、平成12年から増加し、それぞれ5位、6位と上位にランクしています。(表4)

(図2) 昼間人口・夜間人口及び昼夜間人口比率の推移



(国勢調査)

(表4) 昼間人口密度上位10町丁(川崎区・幸区)

順位	町丁名	平成22年		面積 (km ²)	参考)平成12年 昼間人口密度 (人/km ²)
		昼間人口密度 (人/km ²)	昼間人口		
1	砂子2丁目(川崎区)	88,059	5,050	0.06	77,146
2	砂子1丁目(川崎区)	80,406	4,286	0.05	81,246
3	駅前本町(川崎区)	78,349	11,582	0.15	84,550
4	東田町(川崎区)	70,109	5,646	0.08	73,426
5	堀川町(幸区)	58,415	14,792	0.25	43,435
6	大宮町(幸区)	55,554	5,463	0.10	19,127
7	宮前町(川崎区)	50,670	3,533	0.07	45,891
8	新塚越(幸区)	46,573	2,234	0.05	2,346
9	南町(川崎区)	43,196	4,981	0.12	41,978
10	小向東芝町(幸区)	42,107	9,160	0.22	24,868

(国勢調査)

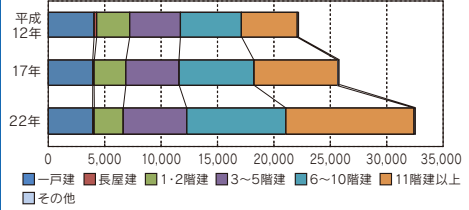
(3) 住宅 - 共同住宅に住む世帯が87.3% -

(表5)住宅に住む一般世帯の住宅の建て方別世帯数

年次別	総数	一戸建	長屋建	共同住宅					その他			
				総数	建物全体の階数							
				1・2階建	3~5	6~10	11階建以上					
平成12年				22,121	4,000	215	17,729	2,959	4,436	5,390	4,944	177
17年				25,629	3,902	156	21,509	2,725	4,779	6,656	7,349	62
22年				32,397	3,894	123	28,293	2,615	5,641	8,765	11,722	87
				構成比 (%)								
平成12年				100.0	18.1	1.0	80.1	13.4	20.1	24.4	22.3	0.8
17年				100.0	15.2	0.6	83.9	10.6	18.6	26.0	28.7	0.2
22年				100.0	12.0	0.4	87.3	8.1	17.4	27.1	34.8	0.3

(国勢調査)

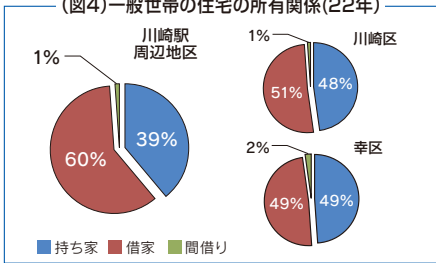
(図3)住宅に住む一般世帯の住宅の建て方別世帯数



(国勢調査)

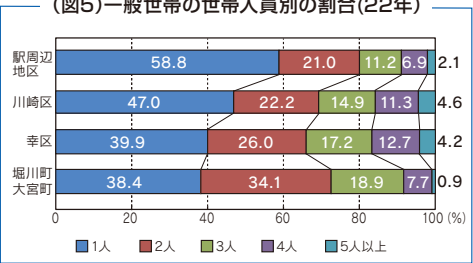
●住宅に住む一般世帯の住宅の建て方別世帯数を見ると、駅周辺地区では「一戸建」と「長屋建」に住む世帯は減少傾向ですが、「共同住宅」に住む世帯は平成12年の17,729世帯から、22年は28,293世帯と1.6倍に増えていきます。また、共同住宅の階数別の構成比をみると、1・2階建と3~5階建に住む世帯は減少する一方、平成22年では6~10階建が27.1%、11階建以上が34.8%と、6階建以上の住宅に住む世帯が全体の6割を超えており、住宅の高層化が進んでいることがわかります。(表5、図3)

(図4)一般世帯の住宅の所有関係(22年)



(国勢調査)

(図5)一般世帯の世帯人員別の割合(22年)



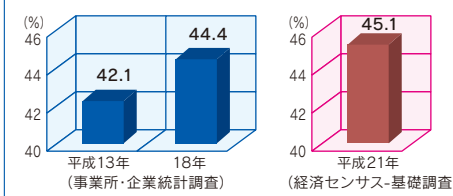
(国勢調査)

●一般世帯の住宅の所有関係をみると、川崎駅周辺地区では、持ち家が39%、借家が60%となっており、川崎区と幸区の全体と比べると「借家」の割合が高くなっていることがわかります。

また、一般世帯の一世代当たりの人員は、川崎駅周辺地区全体では1人世帯が半数を超えています。駅西口地区で住宅整備が進んだ堀川町と大宮町では2人以上の世帯が6割を超えています。(図4、図5)

(4) 産業 - 駅周辺の年間商品販売額は10年間で2.2倍に -

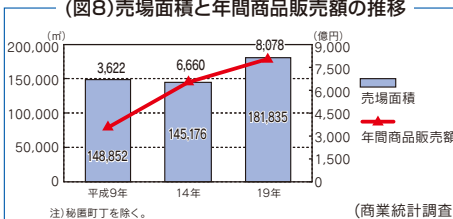
(図6)川崎駅周辺地区の第3次産業従業者が区に占める割合



※経済センサスの創設により、事業所・企業統計調査は平成18年までで廃止となりました。

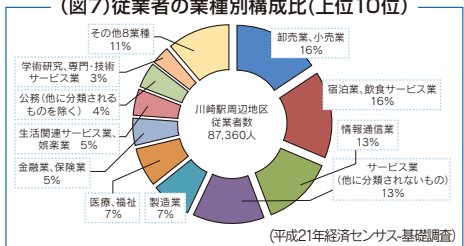
●駅周辺地区の第3次産業従業者が、川崎区と幸区の第3次産業従業者全体に占める割合をみると、平成13年は42.1%、18年は44.4%、21年は45.1%となっています。(図6)

(図8)売場面積と年間商品販売額の推移



注) 堀園町丁を除く。(商業統計調査)

(図7)従業者の業種別構成比(上位10位)



●全従業者の業種別構成比の上位10位をみると、「卸売業・小売業」が1位、「宿泊業・飲食サービス業」が2位、「情報通信業」が3位となっています。(図7)

- 第1次産業「農業、林業」「漁業」
- 第2次産業「鉱業、採石業、砂利採取業」「建設業」「製造業」
- 第3次産業 上記以外の産業

●売場面積(小売業)は、平成9年の148,852㎡から19年には22.2%増の181,835㎡となりました。年間商品販売額(卸売・小売業)は、平成9年の3,622億円から19年には8,078億円と10年間で2.2倍に増え、なかでも駅西口の堀川町と大宮町の2町丁(4,489億円)で5割を超えています。(図8)

3

小杉駅周辺地区

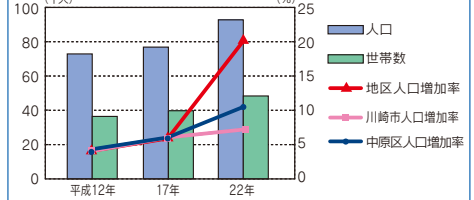
(1) 人口と世帯数の推移 - 駅周辺の人口は10年で27.4%増加 -

(表6)人口と世帯数及び人口増加率の推移

年次別	小杉駅周辺地区			川崎市人口増加率	中原区人口増加率
	世帯数	人口	人口増加率		
平成12年	35,582	70,755	3.9	3.9	4.2
17年	38,981	74,986	6.0	6.2	6.2
22年	46,954	90,152	20.2	7.4	11.1

(国勢調査)

(図9)人口と世帯数及び人口増加率の推移



(国勢調査)

●駅周辺地区の人口と世帯数の推移をみると、平成12年の人口は70,755人、17年は74,986人、22年には90,152人となり、平成12年から22年までの10年間で19,397人(27.4%)増加しています。世帯数は、平成12年に35,582世帯、17年に38,981世帯、22年に46,954世帯と10年間で11,372世帯(32.0%)増加しています。

人口増加率をみると、平成12年から17年の5年間で、6.0%でしたが、17年から22年では20.2%と14.2ポイント上昇しました。中原区の22年の人口増加率(11.1%)と比較すると9.1ポイント高く、川崎市全体の人口増加率(7.4%)と比較すると12.8ポイントと大幅に上回っています。(表6、図9)

(表7)小杉駅周辺地区の人口増加率上位5町丁

順位	町丁名	人口			人口増加数 平成12年~22年	人口増加率(%) 平成12年~22年
		平成12年	平成17年	平成22年		
1	新丸子東3丁目	258	242	4,509	4,251	1647.7
2	今井上町	815	1,319	3,246	2,431	298.3
3	中丸子	7,415	8,058	13,340	5,925	79.9
4	今井仲町	2,486	3,033	3,339	853	34.3
5	丸子通2丁目	1,916	2,230	2,374	458	23.9

(国勢調査)

●駅周辺地区の26町丁を、平成12年から22年の人口増加率の上位5位のランキングをみると、1位は高層マンションが立地する新丸子東3丁目の1647.7%、2位は今井上町の298.3%、3位は中丸子の79.9%となっています。人口増加数では、中丸子が5,925人で1位となっています。(表7)

(2) 昼間人口の推移 - 3地区の中で唯一昼間人口より夜間人口が多い -

(表8)昼間人口・夜間人口及び昼夜間人口比率の推移

年次別	小杉駅周辺地区			中原区
	昼間人口 (a)	夜間人口 (常住人口) (b)	昼夜間 人口比率 (a/b×100)	
平成12年	72,094	70,740	101.9	90.1
17年	74,500	74,986	99.4	90.4
22年	87,701	90,152	97.3	90.9

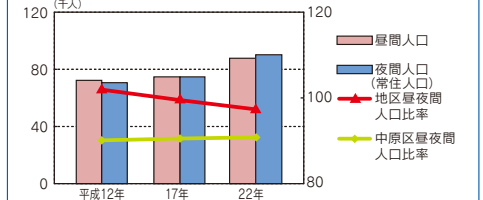
注)平成12年、17年は「年齢不詳」を除く。

(国勢調査)

●駅周辺地区では、昼間人口も増加しています。平成17年からは夜間人口の方が昼間人口より多くなっています。また、昼夜間人口比率は、中原区全体の比率と比べて、駅周辺地区内の比率が高くなっています。(表8、図10)

●昼間人口密度を、中原区の町丁別ランキングでみると、駅周辺地区の町丁が半数を占めており、なかでも商業施設や医療機関等が所在する小杉町1丁目と3丁目はそれぞれ2位、3位と上位にランクしています。(表9)

(図10)昼間人口・夜間人口及び昼夜間人口比率の推移



(国勢調査)

(表9)昼間人口密度上位10町丁(中原区)

順位	町丁名	平成22年		面積 (km ²)	(参考)平成12年 昼間人口密度 (人/km ²)
		昼間人口密度 (人/km ²)	昼間人口		
1	下小田中4丁目	71,405	12,948	0.18	64,214
2	小杉町1丁目	48,559	6,868	0.14	55,778
3	小杉町3丁目	43,312	6,053	0.14	37,716
4	新城1丁目	39,512	1,731	0.04	31,180
5	新城3丁目	38,632	1,298	0.03	34,525
6	上新城2丁目	36,773	2,390	0.06	31,373
7	新丸子町	35,183	3,492	0.10	27,515
8	新丸子東2丁目	33,647	2,584	0.08	31,759
9	新丸子東1丁目	33,549	1,780	0.05	27,027
10	下沼部	26,696	13,541	0.51	21,832

(国勢調査)

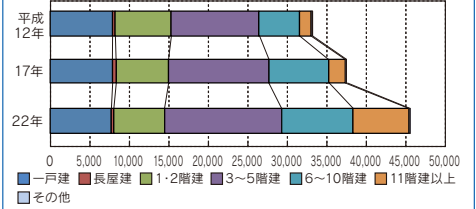
(3) 住宅 -11階建以上に住む世帯が10年で5.3倍-

(表10)住宅に住む一般世帯の住宅の建て方別世帯数

年次別	総数	一戸建	長屋建	共同住宅					その他
				総数	建物全体の階数				
				1-2階建	3-5	6-10	11階建以上		
				実数					
平成12年	33,034	7,797	420	24,705	7,036	11,138	5,166	1,365	112
17年	37,328	7,925	369	28,956	6,589	12,719	7,624	2,024	78
22年	45,492	7,755	334	37,325	6,330	14,813	9,010	7,172	78
				構成比 (%)					
平成12年	100.0	23.6	1.3	74.8	21.3	33.7	15.6	4.1	0.3
17年	100.0	21.2	1.0	77.6	17.7	34.1	20.4	5.4	0.2
22年	100.0	17.0	0.7	82.0	13.9	32.6	19.8	15.8	0.2

(国勢調査)

(図11)住宅に住む一般世帯の住宅の建て方別世帯数

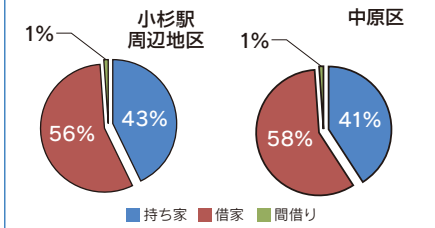


(国勢調査)

●住宅に住む一般世帯の住宅の建て方別世帯数をみると、駅周辺地区では「一戸建」と「長屋建」は減少傾向にあります。また、「共同住宅」に住む世帯は平成12年の24,705世帯から、22年は37,325世帯と1.5倍に増えています。

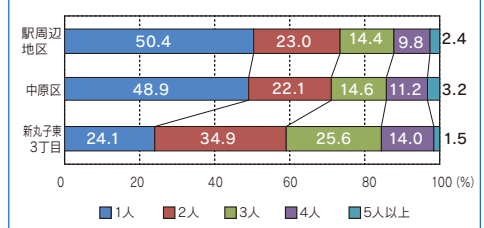
また、共同住宅の階数別の構成比をみると、1・2階建に住む世帯は減少していますが、11階建以上に住む世帯は平成12年の4.1%から22年の15.8%と大幅に増加しており、高層住宅に住む世帯が増えていることがわかります。(表10、図11)

(図12)一般世帯の住宅の所有関係(22年)



(国勢調査)

(図13)一般世帯の世帯人員別の割合(22年)



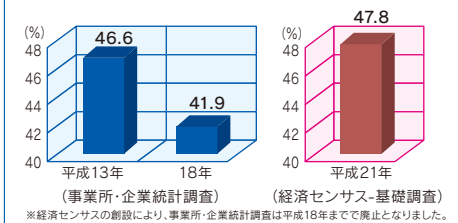
(国勢調査)

●一般世帯の住宅の所有関係と一世帯当たりの人員をみると、小杉駅周辺地区では、持ち家が43%、借家が56%となっており、世帯人員は1人世帯が半数となっています。

また、小杉駅に隣接し、マンション開発が進んだ新丸子東3丁目では、持ち家率は89.6%と高く、世帯構成は、2人以上の世帯が7割を超えています。(図12、13)

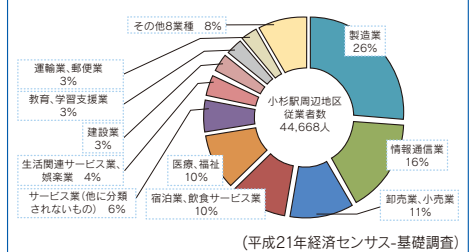
(4) 産業 -製造業の従業者が26%-

(図14)小杉駅周辺地区の第3次産業従業者が区に占める割合



●駅周辺地区の第3次産業従業者が、中原区の第3次産業従業者全体に占める割合をみると、平成13年は中原区全体の46.6%、18年は41.9%、21年は47.8%となっています。(図14)

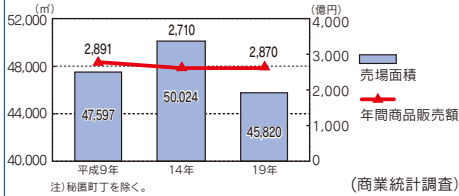
(図15)従業者の業種別構成比(上位10位)



(平成21年経済センサス-基礎調査)

●全従業者の業種別構成比の内訳の上位10位をみると、「製造業」が1位、「情報通信業」が2位、「卸売業、小売業」が3位となっています。(図15)

(図16)売場面積と年間商品販売額の推移



(商業統計調査)

●売場面積(小売業)は、平成9年の47,597㎡から19年には3.7%減の45,820㎡となりました。年間商品販売額(卸売・小売業)は、平成14年に減少し2,710億円(前年比△6.3%)でしたが、19年には2,870億円へと回復し、中原区全体の販売額(4,744億円)の約6割を占めています。(図16)

4

新百合ヶ丘駅周辺地区

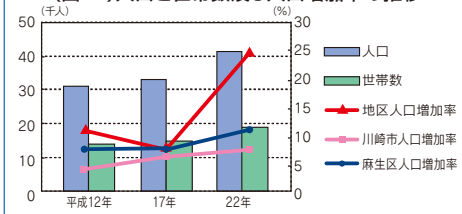
(1) 人口と世帯数の推移 - 駅周辺の人口は10年で33.9%増加-

(表11)人口と世帯数及び人口増加率の推移

年次別	新百合ヶ丘駅周辺地区			川崎市	麻生区
	世帯数	人口	人口増加率	人口増加率	人口増加率
平成12年	13,835	30,754	10.9	3.9	7.6
17年	14,833	33,041	7.4	6.2	7.6
22年	19,077	41,193	24.7	7.4	11.0

(国勢調査)

(図17)人口と世帯数及び人口増加率の推移



(国勢調査)

● 駅周辺地区の人口と世帯数の推移をみると、平成12年の人口は30,754人、17年は33,041人、22年は41,193人となり、平成12年から22年までの10年間で10,439人(33.9%)増加しています。世帯数は、平成12年に13,835世帯、17年に14,833世帯、22年に19,077世帯と10年間で5,242世帯(37.9%)増加しています。

人口増加率をみると、平成12年から17年の5年間で、7.4%でしたが、17年から22年では24.7%と17.3ポイント上昇しました。麻生区の22年の人口増加率(11.0%)と比較すると13.7ポイント高く、川崎市全体の人口増加率(7.4%)と比較すると17.3ポイントと大幅に上回っています。(表11、図17)

(表12)万福寺区域の人口の推移

町丁名	人口			人口増加数 平成12年~22年	人口増加率(%) 平成12年~22年
	平成12年	平成17年	平成22年		
万福寺	827	915	-	6,447	322.8
万福寺1丁目	415	841	973		
万福寺2丁目	755	796	874		
万福寺3丁目	-	-	2,257		
万福寺4丁目	-	-	2,647		
万福寺5丁目	-	-	746		
万福寺6丁目	-	-	947		
万福寺区域の合計	1,997	2,552	8,444		

※万福寺については平成19年12月3日に住居表示が実施され、国勢調査の前回比較において町丁の区域が一部一致していません。

(国勢調査)

● 駅周辺地区の万福寺区域の人口の推移をみると、平成12年は1,997人、17年は2,552人、22年には8,444人となり、12年から22年の10年間で6,447人増加し、人口増加率は322.8%となっています。(表12)

(2) 昼間人口の推移 - 昼間人口密度が最も高い上麻生1丁目-

(表13)昼間人口・夜間人口及び昼夜間人口比率の推移

年次別	新百合ヶ丘駅周辺地区			麻生区
	昼間人口 (a)	夜間人口 (常住人口) (b)	昼夜間人口比率 (a/b×100)	昼夜間人口比率
平成12年	30,763	30,702	100.2	72.5
17年	33,043	33,037	100.0	74.6
22年	41,300	41,193	100.3	80.3

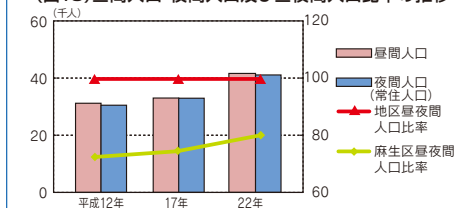
注)平成12年、17年は「年齢不詳」を除く。

(国勢調査)

● 駅周辺地区は、昼間人口も増加しています。また、昼夜間人口比率は、麻生区全体の比率と比べて、就業、通学者が集まる駅周辺地区の比率の方が高くなっています。(表13、図18)

● 昼間人口密度を麻生区の町丁別ランキングでみると、昭和音楽大学や、駅前の商業施設が集まる上麻生1丁目が1位、麻生区役所等が所在する万福寺1丁目2位と、上位にランクしています。(表14)

(図18)昼間人口・夜間人口及び昼夜間人口比率の推移



(国勢調査)

(表14)昼間人口密度上位10町丁(麻生区)

順位	町丁名	平成22年		面積 (km ²)	(参考)平成12年 昼間人口密度 (人/km ²)
		昼間人口密度 (人/km ²)	昼間人口		
1	上麻生1丁目	65,945	9,485	0.14	47,055
2	万福寺1丁目	45,665	6,325	0.14	43,080
3	栗木3丁目	20,362	3,438	0.17	20,558
4	細山2丁目	18,418	1,294	0.07	19,372
5	南黒川	15,257	1,232	0.08	13,436
6	栗木2丁目	12,760	2,719	0.21	4,365
7	百合ヶ丘2丁目	12,633	2,255	0.18	9,356
8	万福寺3丁目	12,592	1,231	0.10	-
9	金程3丁目	12,368	1,611	0.13	11,409
10	東百合ヶ丘3丁目	11,879	2,178	0.18	8,825

(国勢調査)

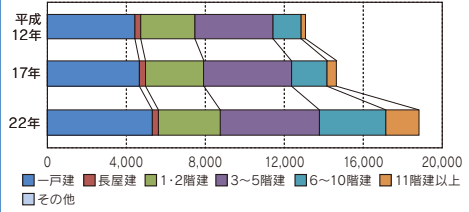
(3) 住宅 ―戸建てに住む世帯が19.5%増―

(表15)住宅に住む一般世帯の住宅の建て方別世帯数

年次別	総数	一戸建	長屋建	共同住宅					その他
				建物全体の階数					
				1・2階建	3～5階建	6～10階建	11階建以上		
				実数					
平成12年	13,277	4,511	351	8,388	2,773	3,936	1,445	234	27
17年	14,730	4,748	329	9,635	2,980	4,463	1,823	369	18
22年	18,925	5,391	320	13,192	3,175	5,026	3,368	1,623	22
				構成比(%)					
平成12年	100.0	34.0	2.6	63.2	20.9	29.6	10.9	1.8	0.2
17年	100.0	32.2	2.2	65.4	20.2	30.3	12.4	2.5	0.1
22年	100.0	28.5	1.7	69.7	16.8	26.6	17.8	8.6	0.1

(国勢調査)

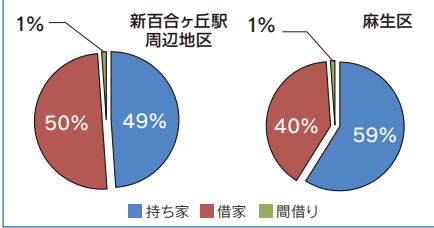
(図19)住宅に住む一般世帯の住宅の建て方別世帯数



(国勢調査)

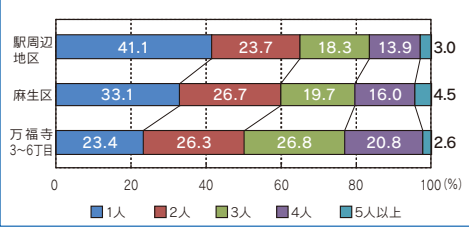
●住宅に住む一般世帯の住宅の建て方別世帯数をみると、駅周辺地区では「一戸建」は平成12年の4,511世帯から22年は5,391世帯と1.2倍に増加しています。「共同住宅」に住む世帯は平成12年の8,388世帯から22年は13,192世帯と1.6倍に増加し、そのうち11階建以上に住む世帯は約7倍に増加しており、住宅の高層化も進んでいます。また、共同住宅の階数別の構成比をみると、次第に「1・2階建」及び「3～5階建」が低下する一方、「6～10階建」及び「11階建以上」が上昇しています。(表15、図19)

(図20)一般世帯の住宅の所有関係(22年)



(国勢調査)

(図21)一般世帯の世帯人員別の割合(22年)



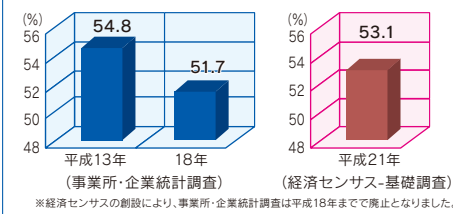
(国勢調査)

●一般世帯の住宅の所有関係をみると、新百合ヶ丘駅周辺地区では、持ち家が49%、借家が50%となる一方、麻生区全体では持ち家が半数を超えており、駅周辺では借家の世帯数の割合が高くなっていることがわかります。

また、一般世帯の一世帯当たりの人員は、麻生区全体と比べると駅周辺では1人世帯が多くなっていますが、土地地区面整理事業で宅地造成された万福寺3～6丁目では2人以上の世帯が7割以上を占めています。(図20、図21)

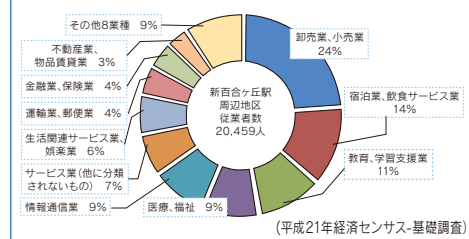
(4) 産業 ―麻生区の年間商品販売額の6割を駅周辺地区が占める―

(図22)新百合ヶ丘駅周辺地区の第3次産業従業者が区に占める割合



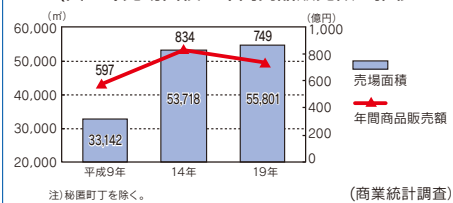
●駅周辺地区の第3次産業従業者が、麻生区の第3次産業従業者全体の中に占める割合をみると、平成13年は麻生区全体の54.8%、18年は51.7%、21年では53.1%で、第3次産業従業者の半数以上は駅周辺地区で働いています。(図22)

(図23)従業者の業種別構成比(上位10位)



●全従業者の業種別構成比の内訳の上位10位をみると、「卸売業・小売業」が1位、「宿泊業・飲食サービス業」が2位、「教育・学習支援業」が3位となっています。(図23)

(図24)売場面積と年間商品販売額の推移



●売場面積(小売業)は、平成9年の33,142㎡から19年には1.7倍の55,801㎡と増加しました。年間商品販売額(卸売・小売業)は、平成9年から14年で増加した後、19年に減少していますが、19年の年間商品販売額(749億円)は、麻生区全体の販売額(1,292億円)の約6割を占めています。(図24)